

2014(平成 26)年度 海外留学体験報告書 慶熙大学(韓国)

文芸学部 文学科

1. 留学中の活動詳細

① 生活面

慶熙大学国際キャンパスの場合、これといって決められたピックアップの日がなかったので、私は留学生オリエンテーションを2日前に控えた2月26日に日本から韓国に行きました。

国際キャンパスは交換留学生にマンツーマンで慶熙大学の学生をひとり留学サポーターとして付けてくれます。そして、事前に学校側に韓国への到着日時を伝えるとそのサポーターの方が空港まで迎えに来てくれるというシステムになっています。私は仁川空港を利用したのですが、仁川空港から国際キャンパスのある霊通(ヨントン)までは空港リムジンバスで1時間半くらいの距離です。リムジンバスは 12000 ウォンかかるのですが、空港から学校までの交通費は学校が出してくださるということなので、そのときはサポーターの方が代わりに払ってくれました。霊通のバス停からさらに 15 分くらい歩いたところに学校があります。学校に着くと、まず入寮手続きをしました。学校内には友情園と第二寄宿舎というふたつの寮があり、どちらに入寮するかは当日知らされました。そして、友情園に入寮することになりました。私は二人部屋を選び、ルームメイトは同じように交換留学で来た日本人でした。部屋には、二人分の机・イス・ベッド・クローゼット・有線 LAN があり、洗面台・シャワー・トイレがまとまったシャワー室があります。そして、各階にはゴミ箱と給水機が完備されていて、ワンフロアだけですが電子レンジが使える調理室やスタディルーム、洗濯室もあります。洗濯室は、洗濯機 6 台と乾燥機 4 台があり、両方も一回につき 1000 ウォンで利用できます。ロビーには、銀行・本屋・コンビニ・フードコート・薬局・文房具屋など多くの店が入っています。学校の敷地内はほとんど wifi がつながるのですが、寮では使えなかったので近くのロッテマートでルーターを買いました。布団も寮で貸してくれるらしいのですが、それを知らずに布団も買ってしまいました。布団は、買っても最終的には処分することになると思うので、借りられるのなら借りたほうが楽だと思います。

そして、2月28日に留学生オリエンテーションをしました。会場に入るときに、領収書を提出して交通費の変換が行われました。オリエンテーションでは、学生証及び通帳の作成手続きや外国人登録証、各種課外活動などの話を聞きました。銀行口座は学生証を作るうえで必要になります。そして、外国人登録証は携帯電話など様々な契約をするときに必要になります。外国人登録証は、学校から歩いて 10 分くらいのところにある水原入国管理センターで申請するものなのですが、私のときは学校側が留学生全員分を代わりにまとめて申請してくださりました。それでも外国人登録証を受け取ったのは、韓国に来て一か月が過ぎてからでした。

携帯電話は、日本で使っているスマートフォンの sim カードだけ変えて、データをチャージしてもらった形で使っていました。一か月 2GB で 20000 ウォンくらいかかりますが韓国はあちこちで

wifi が充実しているのでデータ量もそれで充分でした。

私生活では、休日は友達と遊んだり、観光地や博物館などに行きました。長期休暇には、釜山や大川など遠くに足を運ぶこともしました。課題や発表、試験勉強などで遊ぶ時間をなかなか作ることができませんでしたが、そんななかでも友達と過ごす時間は身体をリフレッシュできる時間でした。さらに、私はボランティア活動も二種類していました。一つ目は、夏に開催された日韓交流お祭りというイベントのスタッフです。広報スタッフやブーススタッフなどいくつかあったのですが、私はブーススタッフとしてブースの運営や通訳の仕事をしていました。日本と韓国がお互いを知ろうという意味ではじまったイベントで、韓国に興味のある日本人、日本に興味のある韓国人に囲まれた空間でボランティア活動できたことはとても感慨深かったです。二つ目は、韓国の小学校～高校を訪れて日本の文化について授業するというものです。留学に行く前から、韓国人に日本や日本語についてもっと興味を持ってもらえるような活動をしたと考えていたので、私にとっては最高のボランティア活動になりました。この活動は、水原青少年文化センターというところが主催しています。私は小学生と高校生を対象に二回この活動をしました。もちろん今までに授業をした経験などないですし、私自身日本文化をすべて知っているわけではないので、日本文化を改めて理解し韓国人に日本文化を伝えられる、とてもいい経験になりました。

② 勉強面

国際キャンパスでは、前期と後期が始まる前にそれぞれ一回ずつ外国人を対象に韓国語レベル確認テストが行われました。しかし、この試験は韓国語能力試験で4級以上を取得している場合なら受ける必要はありません。試験問題は、韓国語能力試験とほとんど同じ形式ですが、ライティングはありません。問題数は全部で33問でした。そして、その結果が正答率によって1～4段階という形に分かれます。1段階と2段階は学部の授業か外国人専用科目を受講できて、3段階と4段階は学部の授業を受講できずに外国人専用科目しか受講できません。私は、前期が2段階で後期が1段階だったので、一年を通して内国授業を受講できました。

韓国の大学生文化のひとつとしても挙げられるのですが、韓国の受講申請はまさに戦争でした。履修登録が開始して1分もすれば、満席になり受講できないほどです。それゆえ、開始時間の前にはあらかじめパソコンの前でスタンバイしていなければいけません。しかし、それでもやはり受講したかったのに登録できなかったという授業は出てきます。私も、前期の受講申請では前以て受講したい授業を6個決めていたのですが、そのなかで無事に申請できたのはひとつだけでした。しかし、申請できなくても先生によっては直接交渉で追加申請を許可していただけることもあります。

交換留学生は、前期と後期でそれぞれ18単位分までなら受講することができます。それゆえ、私は前期18単位・後期18単位で受講申請しました。前期は、全て韓国語学科の専攻科目で“韓国語談話教育論”“韓国語形態音韻”“韓国語文法教育論”“韓国語文化教育論”“韓国大衆文化”“韓国民俗文化”の6個を受講しました。後期も、全て韓国語学科の専攻科目で

“韓国語評価論”“文化の理解”“韓国現代文化”“対照言語学”“韓国語教育学概論”“韓国語発音教育論”の6個を受講しました。

韓国語学科自体が、外国人に韓国語を教える韓国語教師を育成する学科なので、授業の内容も教育論や言語についての論理学がほとんどです。なかには、文化や歴史に関連する授業も多数あります。韓国の大学の特徴のひとつとして、発表の多さを挙げることができます。特に韓国語学科の場合だと、通常のプレゼン形式だけではなく、模擬授業をすることも少なくありません。それも授業によっては、グループで行うこともあり個人で行うこともあります。それらをこなすのはとてもしんどいことですが、韓国人学生たちとの発表の打ち合わせや韓国人の前で10～15分間くらい韓国語で発表と模擬授業をした経験の全てが私をまたひとつ大きくしてくれました。

韓国は、定期試験が中間考査と期末考査という形でふたつ存在します。日本では、定期試験が終わればすぐ長期休暇ですが、韓国だと中間考査が終わってもまたすぐ学校がふつうにあるので変な気分でした。試験は、教科書の内容を理解するだけでは足りません。先生が授業中に強調したところなどはメモを取って、後で見直しすることも重要です。ひとつひとつの試験範囲はとても広いですが、試験問題のほとんどが論述式なので、範囲のなかでも重要なところを意識しながら内容を深く理解しておくことが大切になってきます。しかし、試験期間(特に中間考査と期末考査の間)になると課題レポートや発表が増えてしまい、試験勉強までなかなか手が回らないということがありました。それでも、私は短時間だとしても試験前になったら同じ授業を聞いている人たちとカフェなどでスタディの場を設けて、授業の復習や重要項目のおさらいをしていたのですが、それは本当に役に立ちました。基本的なことですが、日々の予習・復習の大切さを改めて実感しました。

③ 経費

まず、日本から韓国に行くときに日本円で50万円ほど持っていきました。それを韓国で両替して銀行口座に預けていました。夏休みにも日本に一時帰国したので、そのときにも韓国に日本円で数十万円持ってくるなどしていました。

私は、寮費を一年分まとめて支払う方法ではなく、一学期ずつに分割して支払うようにしていました。友情園では入寮する場合、食券も必ず買わなければならないということだったので、私は一番少ない80枚で申請しました。食券代を含めると、一学期分の寮費は約15万円でした。したがって、一年間の寮費は約30万円になります。しかし、これは長期休暇の期間は含まれていないので、長期休暇のときに日本に帰らずに寮にいようと思ったら、また別に寮費を支払わなければいけません。長期休暇の期間は、二人部屋で一日10000ウォンでした。

食費も学校のフードコートならだいたい5000ウォン以内なので、そこまでかかるわけではありません。外食なら10000ウォン程度かかると思います。そして、キャンパスのなかにはバス停が3つあり、学校内なら無料で利用できます。そして、ソウルあちこちに行くバスも学校から走っていて、高速バスなら学校からソウルまで平均2100ウォンくらいでした。留学に来た最初のう

ちは、雑貨などをそろえなければいけないのでお金をたくさん使いましたが、一か月の生活費としては、平均 40 万ウォンほどあれば充分だと思います。

2. 留学の成果について

私は、韓国で約 10 か月間の留学生生活を過ごしました。韓国語の語学力は、留学に行く前に比べると自分でも驚くほど伸びたと感じています。私は、大学に入学してから韓国語を勉強し始めたので、留学が始まったころはまだ勉強歴が 2 年にも達していませんでした。それでも、日本にいるときは自分の韓国語のレベルにもほとんど不自由ななかったので留学に行っても大丈夫だろうと思っていました。しかし、実際に韓国に行ってみると自分の予想とはまったく異なっていました。最初のうちは、授業中に先生の言っていることがほとんど理解できませんでした。しかし、2 か月くらいすると徐々に慣れてきて、先生の話すことも満足に理解できるようになり、スピーキングも以前より流暢にできるようになりました。そのとき私は、海外に来たら教室だけでなく、食堂や地下鉄など何気ない生活空間全てが勉強の場になるのだと感じました。常に韓国語を使わなければいけない状況というのが、語学力の飛躍的な向上につながったに違いありません。さらに、まわりの人達からの刺激も語学力の向上につながったと思います。国際キャンパスには、外国人がたくさん通っているのですが私よりも韓国語が上手な人がほとんどでした。それゆえ、負けられないという気持ちが湧いてきて韓国語への意欲がさらに強まりました。私は、韓国語を勉強していて新しい文法や語彙が出てきたら、使い方が合っているかはわからなくても、日常生活で友達などにそれを実際に使ってみるようにしていました。そうすることで、自然に自分のなかに吸収されるし、間違っていたら友達も教えてくれます。それと同じように、私は常日頃から「間違えてもいいから、がらがんしゃべろう」と思いながら、積極的に韓国語を使って話すようにしています。そうすることで、韓国語を使うことへの抵抗感や不安感が減っていき、自信を持って話せるようになりました。

そして、学校では課題レポートもたくさん出るので、韓国語での文章作成能力も上がりました。最初のうちは、頭のなかで日本語で文章を考えて、それをひとつひとつ韓国語でタイピングしていたので時間も手間もかかりました。しかし、場数をこなすことで直接韓国語で考えてタイピングできるようになりました。さらに、発表も上達したと思います。日本にいるときは発表をする機会がほとんどなかったもので、韓国に来ていざ発表をするとなったときはどうしていいか最初はわかりませんでした。それでも、まわりの韓国人学生は発表も堂々しているし、パワーポイントもきれいに作っているのを見ていただけでも勉強になりました。グループ発表の打ち合わせなどで一人だけ話についていけず悔しい経験をしたこともありましたが、それを乗り越えて最終的には前に立って発表することにも慣れて、先生にも良い評価をいただけるくらいになりました。

留学をしてみて、語学力は本当に伸びたと思います。しかし、私は留学というものは、語学力を伸ばすためだけのものではないと思いました。留学において一番重要なものは、人間としてどこまで成長できるかにあると思います。もちろん語学力を伸ばすということも留学の大

きな目的のひとつです。しかし、海外に行って、いろいろなものを見たり聞いたりして、多くの人と出会い、いい経験や悪い経験をする、そのなかで自分というものを考えて、成長させていくことも重要ななと思いました。そして、必然的にそれを成し遂げるうえでの重要なツールとなるのが、語学力だと思います。私は韓国で生活しながら、自分の今の現状に満足してしまっただけではないと思い、いろいろなことに挑戦していきました。そして、実際にボランティア活動や韓国語学科主催の外国人演劇、などのような日本ではほとんど経験しないことにたくさん取り組んできました。そういった経験によって、自分自身ひとつひとつ次のステップに進んでいくことができたのではないかと思います。

そして、留学のおかげでかけがえのない多くの友達ができました。それと同時に、この留学は友達という存在がとても大きかったと思います。一緒に遊んでくれたり、私が困っているとすぐに助けてくれたりと、いつもみんな温かく接してくれました。私自身、人の温かさに触れることでもっと人を思いやれる、人のために何かをできる人間になろうと思いました。この留学を通して、まわりにいてくれる人達の大切さを感じ、多くの人に感謝しなければいけないということを改めて実感しました。

3. 反省点

私は、留学する前から韓国には友達がたくさんいて、そのおかげでとても安心しましたし、いつも支えてくれました。しかし、そのような状況に甘えてしまっていた時期がありました。私の友達のほとんどが日本語学科なので、韓国語を使うのがしんどいなと感じてしまったりすると日本語で会話することも多々ありました。韓国人の友達とも韓国語でたくさん会話して、韓国語を慣らして使いこなせるようになる必要があるのに、それはとてもばかんな考えだったなと思います。

韓国で多くの外国人と接していくなかで、英語の必要性をととても痛感しました。韓国に来ているのだから英語なんて必要ないのではないかと考える人も多いと思います。私もそうでした。しかし、実際には留学オリエンテーションや文化授業のボランティアの説明は全て英語でした。そのほかにも英語が必要となった場面はたくさんありました。オリエンテーションなどで英語を使う理由は、世界各国から韓国に留学に来ているので韓国語を話せない人も少なくないからです。最初は、ここは韓国なのだから韓国語を使ってほしいと思っていました。しかし、世界的に見ても、日本人が特に英語に弱くて話せない人が多い状況です。韓国人でも英語が上手な人はとても多かったです。言語に順位を付けるのは嫌ですが、やはり英語は世界的言語であり、韓国語よりも英語を話せるほうが世界でもっと通用するのだと感じました。

私は、前期が終わるころに後期に向けての目標として、「外国人だから」という理由で自分のなかに限界を作らないと心に決めていました。実際のところ、私にとって留学中の一番大きな壁は、グループ発表の打ち合わせでした。受講した科目は全て専攻科目なので、韓国人学生と一緒に発表でした。ほとんどの場合、外国人視点から見た私の意見をとても大事にしてくれました、しかし、なかには外国人の意見なんてと言わんばかりに自分の意見を聞いてくれないところもありました。しかし、そんなことよりも自分がやるせなかったのが、発表のノウハウや韓国

語の能力が足りないゆえに発表の打ち合わせで自分の意見や考え方をほとんど伝えられない、そしてグループ内での話についていけず内容をほとんど理解できないということがたくさんあったことです。そのときは本当に落ち込みました。そして、一番悔しかったことは、私が「何か助けになりたいのに、なにもできなくて申し訳ないです。」とグループリーダーに言ったときにその人に言われた「仕方ないよ。外国人だから限界もあるさ。」という言葉でした。慰めの意味で言ってくれた言葉ですが、私はそれを聞いて本当に悔しくなりました。韓国に留学に来て、内国授業を受講して、韓国人学生と一緒に発表をする以上、「外国人だから」というのを言い訳にしたらいけないと思うし、私自身それを嫌っていました。しかし、心のどこかではそのような甘えもあったのかもしれません。このことがきっかけで、外国人だからという理由で限界を作るのではなく、たとえ限界があったとしてもそれを上書きできるくらい努力しようと決意しました。

4. 海外留学を目指している学生へのアドバイス

留学に行く前には、基礎的な語彙や文法を中心に知識をつけておくのがいいと思います。海外に行くと、ネイティブとの会話などの実践的活動がほとんどなので、その前に日本にいる間にしっかりと土台を作っておくことが重要です。

留学中は、たくさんの方に挑戦して行ってほしいです。毎日のように部屋にこもって生活したり、日本人同士ずっと一緒に行動したりするような殻にこもる生活はとてつもないです。上でも書きましたが、外国人に対して間違いを恐れずに積極的に外国語を使うことと、自分の現状に満足せずに常に上を目指すということを心掛けてほしいです。そうすることで、きっと語学面でも精神面でも成長できるはずですよ。

海外で生活していると、多かれ少なかれその国の悪い部分も見えてきてしまいます。政治的な部分であれ、身近な問題であれ同じです。しかし、そういったときにも主観的に見るのではなく、客観的に見るのが大切だと思います。全てを受け入れるという意味ではありません。ただ、その悪い部分もその国の一部ですが、それがその全体ではないということをおぼえていただきたいのです。また、海外で友達関係を築くにあたって、政治的問題なんて一切関係ありません。国は国、個人は個人です。これは、韓国に留学していた私が言うので説得力はあると思います。

留学に行くかどうか悩んでいる方も多いと思います。海外で一年間生活するというのは、期待もあるでしょうが、想像もつかないほどの不安もあることでしょう。しかし、できることなら勇気を持って飛び込んでみてほしいです。実際に、ほかの国に行くとも見るものや聞くもの、感じるものが全て新鮮で自分のなかでまたひとつ新しい世界が広がります。しかし、留学を決意するのであれば、しっかりと気持ちの準備が必要だと思います。つまり、中途半端な気持ちではダメだということです。はっきりとした決心がなければ、韓国に来て満足いく生活が送れずに、せつかくの留學生活を無駄にしてしまうかもしれません。それでは本当にもったいないです。留学に行く前から目標、計画、そして意欲と気持ちをしっかり持つことで、人生においてとても意味のある一年間にできると思います。もちろんつらいこともたくさんありますが、それらに負け

ず後悔の残らない最高の留学生活を送れることを願っています。